interview yuhei_makino

モットーは『ちょっと便利なユニークな会社』

穀物を粉にして食べることを 思いついた時から粉砕の歴史が始まったと考えると、人類が初めて作り出した機械は粉砕機だといえるのかもしれない。大正15年（1926年）創業者の槇野義一郎が創り始めたマキノ式粉砕機は、第二次世界大戦後の食糧危機の際には、政府の食糧対策の一環として10,000台の生産が計画され、三菱重工業株式会社、株式会社神戸製鋼所、三機工業株式会社など8社13工場に技術公開を行い実行に移された。その後の日本の産業発展の場には、常に粉砕技術の要求が有った事で同社の粉砕機をはじめとする粉体処理機器が幅広く使われるようになった。そして、資源を循環しながら使う為のリサイクル技術にも粉砕技術の活躍の場がある。

槇野産業株式会社
槇野 雄平 常務取締役

お客様の欲しい機能が実現できる

「我が社では、原料をハンマーで叩いて壊す様な機構の粉砕機を作っている会社ですが、他業種の企業とコラボレーションする事により、『粉砕』という単語に関してはただの粉砕機だけでなく、色々な機械をご紹介することが出来るようになりました。例えば、粉砕した後に混ぜてみたり、それを空気輸送したりといったように、他の性能の機械を組み合わせることで、お客様の欲しい機能が我が社で実現できるわけです」。

今では、大企業や道の駅、個人商店まで槇野産業の機械は採用されている。

国際機関との連携で社会貢献

「近年では、国際連合工業開発機関(UNIDO)より協力依頼を請け、2015年にスーダン共和国へ粉砕機ほか大豆をパンにする関連機器を納入いたしました。弊社は2012年に国際連合によるケニア共和国へ食糧難対策として、粉砕機を納入した実績を買われ、スーダン共和国への機器納入に至りました。こういった協力はこれからも、積極的に参加していきます」。

『機械』ではなく『機能』を納入する

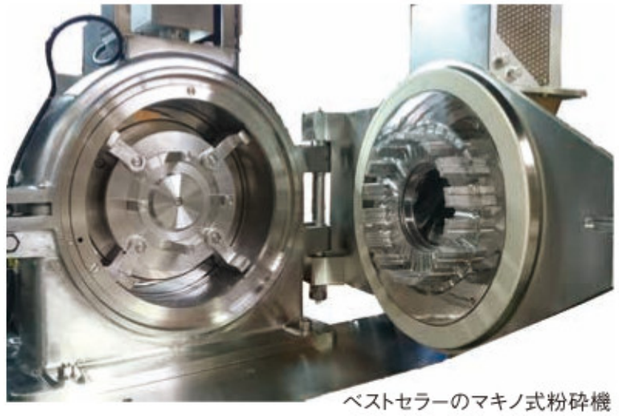
顧客のニーズに対してはどのように対応しているのか。

「その点に関して言えば、我が社は『売る』わけではなく、お客様の『こうして欲しい』という機能を納入することに重きを置いています」。

極論だが、既存のカタログモデルだけの企業では、顧客の問いかけに、"たぶん出来ると思いますので買ってください"となってしまう。

「我が社では、設計から製作、組立、テスト、納入まで自社のオリジナルで完結します。納入されたものが、"ちょっと不自由だな、こうした方が使い易いな"ということがないように、お客様のこうしたいに出来る限り応え、プラスαで便利に、そして"困った"が無いように、一緒にお客様と考え、悩み、1台だけのオリジナル商品を作り上げています」。

常に槇野産業では、納入先の周辺も観察し、プラスαの機能を探し続けている。



ベストセラーのマキノ式粉砕機

発想の転換で『粉砕』の世界は拡がる

「珍しい例では、奈良のお寺から遺骨を粉砕して、散骨したり、永代供養塔に納めたいと相談がありました。機械じみた外見では心象が悪いとの事で色々と検討し、試行錯誤した結果、象の置物の中に粉砕機を入れる事になり、動物の乗物を作る会社と協力しをし、お寺からの要望に応えました。このようにオーダーメイドできるのも、大企業にはない強みです」。

発想の転換で要望に応えた白象るんびーな

積極的にPR活動を行っていく

「ホームページで動画を使用したり、現在製造技術データベースサイト イプロス製造engineer(http://www.atengineer.com/gt/)にて、弊社情報を掲載していますが、それらをリンクしたり、既存のお客様の掘り起こしなどにメルマガを使用して、成長をし続ける槇野産業を知ってほしいと思っております」。

粉づくりのコンサルタント

「我が社は創業92年目を迎え、歴史のある会社ですが、ハード面だけでなく、人と人とのつながりのソフト面も大切にして、お客様に最善の『機能』を提供する粉づくりのコンサルタントとして応えていきます」。

認定製品の製造背景やエピソードをマンガで紹介しています。▶

槇野産業株式会社 〒124-0014 東京都葛飾区東四つ木2-11-8
TEL 03-3691-8441 HP：http://www.mkn.co.jp

KATSUSHIKA 町工場物語